



日刊集日曜日誌
日刊集一ヶ月廿五
郵券十五部二部
廣告料 一行四十
場所指定 二十行
發行所 印刷部
石城郡平野町三
新島町三番地
新島町三番地

座講識常
ムードは式または様式
情調、気分、心持と云
つたやうな謂で此の情
調気分を指かんとする
は近代文學のみでなく
繪畫であら彫刻であれ
此の氣持が透りぬける
ムードが足らぬ等と云

商港の擴張工事に 鐵道平小線の敷設

従業員數千人の硫安工場 躍進に拍車の小名濱

石城郡は地元有する豊富な
石炭を單に燃料用途の途を採る
のみでなく液化その他の近代
工業が漸く計畫されて日昔の
物賣い炭業介入の如きも勿論
その目的らしく今後この種の
事業に目ざましい進展を示す
ものと見られて居り目下設置
計畫を進められて居る大きな
ものに資本金一千數百萬圓の
小名濱硫安工場がある而して
雇傭人數千人と云はれる同社
の創業は同町の發展に大なる

赤井嶽の薬師祭

武運長久や戦捷祈願で 昨年より二割増の参詣

石城地方に於ける盆踊最終の
盛り場である赤井嶽薬師は今
四日(舊七月三十日)が宵祭で
明朝まで踊り明かす山上常福
寺境内の賑はひと勢越東線赤
井嶽から里餘の山道に續く善
男善女の参詣は毎年萬を以て
數えられ今年も殊に賑やか
高な同寺に時局柄の武運長久
や戦捷祈願をなすもの多く赤
井嶽は正午までに上下列車で
昨年より約二割増の一千名近
くを算し夕刻までには三千人
を超える賑を呈せられ更に
同際平野間の乗合自動車の大
繁昌より推し近年になへ賑は

濱通に新設の 郵便局所

石城に二つ相馬に
二ヶ所
東北振興を加味し雪深い山間
地や離れ小島の不便救済を考
慮し郵便局所の新設を計畫さ
れてゐた仙台通信局では向ふ
五ヶ年計畫の今年第一年度に於
て集配局七、無集配局五十三
郵便取扱所四十五計百五局所
を増設する筈であるが本縣濱
通りで其の地に上げられたも

四倉市場 第十日目の

初秋は明日で終り
晩秋は廿一日から
四倉市場第十日目の昨日
の出廻りは百二貫七百四十匁
この總額三百五十七圓三十三

平驛の八月貨物 四十七圓の増収

磐炭の焚殻輸送を絶たれて 一般貨物で漸次盛返す

平驛に於ける去る八月の貨物
高は磐炭焚殻平發電所の焚殻
を山元へ送り返されなくなつ
た影響で發送を激減し此の收
入のみで一月一千六百圓の
狂ひを來たしてゐるが同月の
取扱ひ高は
發送二九七五噸(七九八〇
ト) 到着一九九二九ト
(一七三五四噸) 收入九四一
九圓(九三三・七圓) 括弧内は
前年同期

平市の 條例規則 (三)

(2) 市立學校授業料免
除規則
第六條、前條ニ依り免除ヲ
受クルヲ得ル者ハ前條ノ事
故發生ノ當時ヨリ引續キ同
籍内ニ在ル者又ハ事故發生
後出生シタル其ノ嫡出子ニ
シテ同籍内ニ在ル者ニ限ル

桶屋の息子から カグラ打の養子

十六の少年が盗みするまで そうなきしめた世の罪

去月三十日石城郡植田町内を
薄汚たない神樂の獅子を携へ
て徘徊する十五、六才の小僧
の舉動が怪しいので植田署の
草野刑事が引致取調への結果
北會津郡の神樂打丑之助の養
子山寺捨吉(六)假名と稱し植
田町附近を去る八月廿三日か
ら廿六日に亘る四日間カグラ
舞をしながら各戸を回り留守
宅に忍んで白米を盗み貰ひ米
に混じて町内に賣却した被害
高五斗餘に達してゐることが
判り身柄を平検事局に送られ
たが同少年の生え立ちに於て
大正十一年四月二日石城郡田
人村の旅人字妻橋の桶屋某方
に生れ母つと弟一人の四人
暮しの中から六才の時植田町
の知人世話で前記丑之助に賣
はれ各地を轉々してゐる昨年
十二月某本質宿で丑之助に置
去られ食ふに困つて遂に盗み
を覺えたものであると

製炭講習

縣聯主催の 來る廿一日から

縣木炭同業聯合會では製炭指
導員及び検査員養成のため製
炭の長期講習會を開催昨午第
一回の同會に於て廿餘名を學
ばしめ頗る好成绩を得たので
本年も聯合會主催の下に來る
廿一日から十一月末日に至る
七十日間石川郡中谷村の中田
字西木澤中田施業森林組合林
内に同講習會を開催の筈で高
小卒二十歳以上三十才までの
希望者廿五名を入講させるこ
とになつたが志願者は來る十
日迄に聯合會長宛申込まれた
いと

川部村で經濟更 生の宣誓式

石城郡川部村は十一年度の經
濟更生指定村で漸く計畫を整
へたので明五日午前六時同村

國防婦人會の 神賣り

去一日五十圓賣上ぐ
石城郡江名町の神白及び永
崎國防婦人會では去る一日會

銃後團の赤誠

石城郡築輪村の高野では部落
民一同で銃後團を組織し融金
四十圓を軍軍慰問に献金し軍
人遺家族に對して別に慰問の
方法をとり農作業等の勤務奉
仕をなすことにしてゐると

久の濱國婦會長 慰問費に五十圓

雙葉郡久の濱町國防婦人會長
志賀やつ子さんは去る二日金
五十圓を福島縣陸軍司令部に
慰問金として献金した

母の搜索願

福井縣福井市乾新町渡部しづ
(室)は行方不明の爲め搜索中
のところに最近平市内に居ら
しい風聞があると目下病床に
ある娘の貴美野から今日平

看護婦(數名)急募ス

希望者ハ履歴書持參本人來院ノ
コト
九月四日
平野病院
平野十五丁目(電話六四二番)

署に搜索方を願出た ハン傷害起訴

平市字堂の前合資會前平電氣
鑛工所難夫石城郡草野村の下
神谷中根實(三)が去月三十日
仕事のことから同所職工宗方
寅四郎(四)と口論の末寅四郎
にハンマーで頭部を毆られ血
が流れたのに激怒し高橋某が
仲裁に入つた途切り同ハンマ
ーで宗方の左胸部を毆り返し
肋骨を折余治五週間の傷害を
負はした事件は平検事局の取
調への上今日起訴來る七日
公判に附されると

東洋化學に 部民苦情

平市北目町東洋化學工業所
は軍需品製造に好利を上げ
てゐるが瓦斯輸送管の設備が
不完全なもので二硫化炭素の漏出
に起るので附近の新井滋造氏の
畑作物を枯死に陥らしめた外
畑作物にも被害を及ぼして來た
ので同氏及び關係部民から昨
三日縣保安課へ次第を陳情す
る一方損害賠償を要求すべく
協議中であると

種類	本部	第一部	第二部	第三部	第四部	計
組頭	一	一	一	一	一	五
副組頭	一	一	一	一	一	五
部長	一	一	一	一	一	五
小頭	一	一	一	一	一	五
消防手	二五	四三	四三	四三	四三	一七二
計	二五	四六	三三	三三	三三	一七二

農業方面

紫雲英の種子選擇 (一)

農試本場天辰生

凡て作物を栽培するに當つて品種を選擇すると同時に種子を吟味することは極めて大切なことである、何故ならばその品種が純粋であるか雜駁であるかといふやうな遺傳的性質に關する平柄や、發芽に當つて必要な貯藏養分が豊富であるか貧弱であるかと云つたやうな栽培上大切な平柄が悉くあつた種子の中に含まれてゐるからである、今日では鹽水撰の方法など實行されて種子撰別も容易になり、且つ重要作物については品種問題がやかましいので種子のことは比較的忘れ勝ちの様であるが品種のことがあまり考へられなかつたと思はれる昔には専ら種子の撰別に重きを置いたものゝ様である、徳川時代に書かれた宮崎安貞の農業全書の中に種子と題して次の様に書かれてゐる、

五穀にかぎらず萬つものたねをえらぶ事肝要なり、是生物の根源にして、即ち生理その中に在ることなれば慎んで大切にすべきことなり、作り物の過ぎもせずよき程に出来て虫氣の痛みもなく、色よくうるはしきを常の刈りしほより猶よく熟して刈取り雌穂を見分けたりとるべし、雌穂といふは其穀しげく莖も葉もしなやかに節高からず見ゆるものなり、作多き家には刈取りて後庭にてあり分量より餘計を貯へ置くべし、又粟黍などの類は其畑にてよく秀いで色よきをえらび抜き穂にして吊して置くべし

牛も豚も優良品の自慢
肉の御 三三三屋 平市 用命は 三三三屋 用町

診療科目
口腔外科、補綴科
保存科、齒列矯正科
小兒齒科
(其他齒科一般)

毎日晝夜診療
日曜午後休み

平市田町(藤田女學校前)
齋藤齒科醫院
齋藤賢三

内科、小兒科
大森醫院
醫學士 大森勇
平市南町 電話二五八番

デリーサービズ

日	月	水	木	金	土	日
ランチ	カツレツ	エビ	ステーキ	カツレツ	ステーキ	ランチ
CA	カツレツ	エビ	ステーキ	カツレツ	ステーキ	CA
差引	差引	差引	差引	差引	差引	差引

特にマルトモのランチは...
材料のおまかせを願つて居る爲め其の節々のおいしい新鮮な物を御進め出来たので御華客様からいつも御好評を戴いて居ります

RESTAURANT MARUTOMO
堂食モトルマ

お醤油は ヤマフル

醬油味噌
たひら正宗
鯉節食料品

山崎合名會社
電話 本業部 二七〇番

明治生命磐城代理店 山崎與三郎

債券 公債 兩替 金融
多田井質店
平市大工町 電話五九一番

病室増築、手術室完備
産科 醫學博士
婦人科 五十嵐雄二
平市新川町「電話三六九番」

大見切 〇〇〇大見切

奉仕品 婦人洋傘 子供帽子 清凉着

是非御来店を御待ちして居ります
ツルヤ 電話一四〇

スヘイン G・H・N 元詰
ゴルフポートワイン
甘味葡萄酒 1・10
婦人の方には少し水を加へて
百しよると風味一そう付きます
(平2) 西村屋薬舗 (電3)

藤沼醫院
平市紺屋町 電五〇七

平病院 (平市元共濟病院跡)
院長 醫學博士 鈴木定藏

小兒科 院長 醫學博士 鈴木定藏
産科 部長 醫學士 池谷宗三郎
外科 部長 醫學士 鈴木定藏
皮膚泌尿器科 部長 醫學士 鈴木定藏
物理療法科 技師 岡田重徳
藥劑科 部長 藥劑師 吉本幸平

診療時間 毎日午前八時より午後九時止
夜間診療に従事す(急患は此限にあらす)
往診隨時、病室完備 (自炊の便あり)

良品廉價は 富田屋

富田屋 電話 五〇五

喫茶 喫茶 喫茶
酒場を兼ねた。

レストラン

サロシ

町田平 二五三電